

1. 件名：日本原燃株式会社再処理施設における供給液槽Bの安全冷却機能の一時喪失に係る面談（7）

2. 日時：令和4年9月14日（水）13時30分～15時20分

3. 場所：原子力規制庁 2階打ち合わせスペース（TV会議により実施）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 検査グループ

核燃料施設等監視部門

伊藤（博）統括監視指導官、平野主任監視指導官、

奥山主任監視指導官、福永原子力運転検査官、赤石行政事務研修員

長官官房 技術基盤グループ システム安全研究部門

山口技術研究調査官、久保田技術参与

六ヶ所原子力規制事務所

松本事務所長、皆川原子力運転検査官、山神原子力運転検査官

日本原燃株式会社

再処理事業部 再処理工場 ガラス固化施設部長 他5名

株式会社IHI システム設計部 プロジェクト設計G 主査

5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社（以下「原燃」という。）から、9月8日に原子力規制庁からの法令報告事象の安全上の影響に対する質問について、資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、本日の法令報告事象の安全上の影響に関して、報告書の安全性の評価に記載されている供給液槽の安全冷却機能喪失時の沸騰時間などの算出に対する評価に用いた入力データ（貯槽の密度、容器表面熱伝達係数等）の根拠や評価モデルの妥当性などについて、技術的な議論が必要と考えている旨伝えた。また、本法令報告事象については、社会的な関心も高いことから、9月5日に原燃が提出した原因と対策（補正版）の内容及び是正措置の実施状況等について公開の場で確認することとし、上述の技術的な内容についてもその場で議論する旨伝え、原燃から承知した旨回答があった。

(3) その他、原燃から、是正措置として行った弁の系列及び番号の識別表示

の有効性（1 m離れた状態の視認性）について、約400人の協力会社の作業員等にアンケートを行った結果、約85%の人が弁の系列及び番号の識別表示が問題なく視認できるとの回答があった旨説明があった。

6. その他

資料 廃液の沸騰評価について

参考

再処理工場 高レベル廃液ガラス固化建屋における供給液槽Bの安全冷却機能の一時喪失について（報告）

<https://www.nsr.go.jp/data/000398676.pdf>

再処理工場 高レベル廃液ガラス固化建屋における供給液槽Bの安全冷却機能の一時喪失について（補正）

<https://www.nra.go.jp/data/000403121.pdf>

令和4年8月5日の面談概要

<https://www2.nra.go.jp/data/000400884.pdf>

令和4年8月16日の面談概要

<https://www2.nra.go.jp/data/000401481.pdf>

令和4年8月23日の面談概要

<https://www2.nra.go.jp/data/000402142.pdf>

令和4年8月30日の面談概要

<https://www2.nra.go.jp/data/000403136.pdf>

令和4年9月8日の面談概要

<https://www2.nra.go.jp/data/000403650.pdf>